

行政視察報告書

令和6年4月8日

西脇市議会
議会運営委員会

- 1 視察実施日及び視察先
令和6年4月8日（月） 多可町議会

- 2 視察事項
議会DXの推進について
 - (1) タブレット等の操作に不慣れな議員への対応について
 - (2) ペーパーレス文書共有システムの活用状況（可能であればシステム操作等の実演を希望）
 - (3) 議会DXの今後の展開について

- 3 参加者

委員長	村岡	栄紀
副委員長	林	晴信
委員	岸本	年裕
〃	浅田	康子
〃	村井	正信
〃	寺北	建樹
副議長	吉井	敏恭
事務局	小谷	健悟

所 感

村岡 栄紀

多可町議会では令和3年4月から「Sidebooksクラウド本棚（電子化した文書をクラウド上の電子本棚でセキュアに管理し、登録されたメンバーで共有するシステム）」仕様のタブレットを導入されており、実際に議員の皆さんにマンツーマンで操作方法等の指導をしていただきました。

使ってみると、操作は分かり易く簡単で、即戦力として活用できそうで、使い方次第では非常に有効であることが感じ取れました。私事ではありますが、片付け下手で資料を整理することが上手くできずに、膨大な紙ベースの過去からの議案書をはじめとする重要な資料が事務所に山積みされた状態であり、必要な時にそれを探す時間に忙殺されたり、肝心な時に見つからず使えないなどといったことも頻繁にありました。

「SideBooksクラウド本棚」を使えば、そういった膨大な紙ベースの資料がすべて時系列や項目別で収納され、必要な時に必要とする資料が瞬時に取り出せることにより、「経年における比較の容易さ」

「審査・調査事項に対する更なる深まりとスピードアップ」など議会活動のクオリティとコストパフォーマンスを高めることが大いに期待できるものであることを確信しました。

本市議会において、まずやるべきことは「議会DX推進小委員会」を立ち上げて、単なるSDGs貢献とペーパーレス化だけでなく、新たなトランスフォーメーションとして、こういったデジタル化をすれば真の意味での議会DX推進に繋がるのかということをしつかりと理解したうえで、具体的なアクションとして行っていきたいと考えます。

林 晴信

交流も深い多可町議会への視察だったから良かったのだろうと思う。ペーパーレスに不安だった議員の安心へも繋がったことだろうと思う。ただ、多可町議会で見せてもらった内容は実は現在の無料システムでもできることばかりで、多可町議会でもまだまだ途上段階にあると感じた。ページ通知機能も使っていないとのことだった。

使用アプリであるSidebooksの良いところはGUIが見やすくシンプルである点。もっと多機能なものもあるが、閲覧主体のものであるから、このくらいシンプルなものの方がいいとも思う。共同作業や他の機能を使うのであれば別アプリで対応も可能だからだ。

ただ、タブレット画面が小さいのは辟易する。拡大すれば見えるというが、いちいち拡大することの手間は面倒の一言である。完全ペー

パーレスだと見比べや参照の頻度が高いため複数画面を開くことになるので、最低でも15インチくらいは欲しいところ。

また何もタブレットにこだわる必要もなく、タッチパネル方式のノートパソコンのほうが良い気がする。（ちなみに私が議会で使っているのがそう。）

議会DX調査小委員会はこのぶんだと発足することになると思うが、大事なのは議会運営委員会が、何を調査させるのかという諮問内容をきちんとすることにある。見失ってはいけないのは、議員の責務（仕事）は、①議案の審査②請願・陳情の審査③所管事務調査である。これをデジタル化によって進化、深化させないと意味がない。逆にいえば、これが低下するようなデジタル化はしてはならないということである。ペーパーレスなんかより遥かに大事なことであることは最初に言っておきたい。行政のいうペーパーレスとは立ち位置が違うのだ。蛇足ながら、会議の効率化とやらも違う。行政は好きなだけ効率化をやれば良いが、議会で大事なものは「熟議」による結論であって（時間的）効率化は二の次である。間違っはいけない大事な部分である。

岸本 年裕

多可町議会のDXを通じて、デジタル化が議会運営に与える利益や効果を体感しました。

これを西脇市議会にも導入することで、情報共有の迅速化や効率的な意思決定が実現できると期待されます。

また、デジタル化は単なるツールの導入にとどまらず、議会文化や運営方法にも影響を与えます。

議会内のコミュニケーションや意思決定プロセスの改善も重要です。

西脇市議会における議会DXの導入は、地域の発展や市民参加の促進に向けて重要な一歩です。議員や理事者との十分な協議と準備を経て、効果的な導入を進めることが望ましいと考えます。

浅田 康子

議会からの提案として、導入前の現状課題を抽出し、それを解決するためにICT化を検討されたとの経過を聞いて、多可町議会の議会改革の姿勢を感じた。

マンツーマンで使い方を教わって便利であることは理解できた。

iPadを使う効果、効率を考えると将来的には移行していく機器であると思う。

西脇市議会も導入に向け前向きに取り組む必要があると感じた。

村井 正信

- 1 導入前の現状として、「膨大な資料のため整理に苦慮」、「資料が多すぎて持ち運べない」、「煩雑に資料を取りに行く必要がある」、「住民に迅速な回答ができない」、「資料の印刷や差し替えに職員の大きな労力が使われている」等が記載されています。上記が「ICT化推進」の理由だと考えますが、本来は「議案審議を充実する」ために推進するのではないだろうか。その点について質問すると、ICT化を推進したからといって審議が従来より充実したということはない、とのことであった。また、「資料の差し替えに職員の大きな労力が使われている」ことは、そもそも資料訂正が頻繁にあることが問題で、ICT化により差し替えへの労力が少なくなるということは、問題外である。
- 2 端末費用及び通信費用（3年契約）での消耗品費 1,050,000円、通信料（端末代金含む） 2,800,000円／年、6年度の端末通信費用 1,400,000円との記載があり、これによると少なくとも通信料は年間 2,800,000円が必要であり、ペーパーレス化による費用減少分は 1,249,886円であることを考えると、ペーパーレスのための費用に 2,800,000円を投資していることになる。
- 3 実際にタブレットの使用を経験すると、一枚の用紙に記載された議案は読み込むことは可能であるが、予算書や決算書は現状の予算書等はすぐにページにたどり着くことができない不便さがある。また、私は補正予算額を予算書に書き込んで何時に補正されたかを分かるようにしているが、このタブレットでは書き込みは可能であるが、補正6号までしか記載できない。
- 4 これらのことを考えると、一枚の用紙に記載された議案はICT化（個人としては印刷するであろう）しても、ページ数の多い冊子は困難と判断する。ただ、資料として、タブレットに予算書や決算書等があることには何の問題もない。

寺北 建樹

ICTを不得意とする自分にとって、最低限の活用で済ませてきたが、多可町議会の取組を見聞きする中で、資料の整理と持ち運びの便利さに改めて気付かされた。

今回の視察をスタートとして、より充実した内容を求めて「委員会」を立ち上げてはどうかと考える。

しかしながら、ICT化の推進は事務作業等の省力化であって、議会力の向上には直接的には結びつかないと考える。

吉井 敏恭

平成29年11月、議員1期目の初めにタブレットの貸与を受けました。タブレットの主な目的は従来の例規集（紙媒体）に代わるものとのことでありました。

しかし、配布されたタブレットは非常に使い勝手が悪く、私の場合はほとんど使用することなく現在に至っております。

私は、かねてから非常に使い勝手が悪いタブレットに代わるものを導入し、議員全員が同じタブレットを持ち議会で活用できることを願っております。

近隣の多可町議会、加西市議会では、Sidebooksクラウド本棚のタブレットが導入されていることを承知しておりましたので、今回の視察に期待しておりました。

視察では議会ICT推進特別委員会委員の1対1での対応によりSideBooksクラウド本棚の体験が実現し、その使い易さを実感いたしました。

西脇市議会が推進しようとする議会DXの取組において是非ともSideBooksクラウド本棚のタブレットの導入を願うところであります。